

地球環境問題について

平成19年5月15日

臨時議員 麻生 太郎

1. G8サミット及びTICADⅣを成功させる重要性

- 2008年は、我が国がG8サミット及び第4回アフリカ開発会議(TICADⅣ)を開催する年。議長国として、この2つの国際会議を成功させることが重要。
- 気候変動を始めとした環境・エネルギー問題は、日本が主導権をとって、議論をリードしていく分野。

2. 京都議定書の6%削減目標について

- 温室効果ガスの6%削減目標の達成は、今後の国際交渉に向けた戦略の大前提。
- すでに産業界を始め、相当の努力が払われていることに敬意を表しつつ、公約達成に向け、国内を挙げて一層の努力をお願いしたい。

3. 2013年以降の将来枠組みについて

- 世界全体の排出削減にとって実効性のある枠組みを構築すべく、「共通だが、差異のある責任」原則を踏まえた枠組みとすべき。
- 途上国を含むすべての主要な排出国が参加する枠組であることが何よりも重要。そのためには、途上国にもきめ細かく配慮することが必要。

4. 途上国対策のための「資金枠組み」について

- 総理のイニシアティブの下、環境・気候変動問題で世界をリードすべき我が国に相応しい、「資金枠組み」を構築する必要がある。
(cf. 英では環境分野の国際協力推進のために、新たに3年間で2000億円規模(8億ポンド)の「環境変革基金」を設置)
- 途上国支援としては、①気候変動の緩和、②気候変動の影響に脆弱な途上国の適応、③エネルギー・アクセス、が考えられる。
- 途上国だけでは対応できない気候変動の影響への対処に協力することは、次期枠組み交渉への参加を促す上でも重要。
- 観測技術などの科学技術、省エネ、公害対策の経験などの我が国の経験・技術に基づく「日本らしい」支援を目指す。
- 途上国自身の環境・気候変動対策を進めるために、我が国からの政策提言・発信型とする。